

(様式第 10)

大医病発第 55 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 大阪医科薬科
理事長 植木 實

大阪医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
氏 名	学校法人 大阪医科薬科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪医科大学附属病院

3 所在の場所

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号	電話 (072) 683-1221
----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科	②消化器内科
⑤神経内科	6血液内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	③循環器内科
	7内分泌内科
	④腎臓内科
	8代謝内科
	⑪リウマチ科
診療実績	
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科の内容は内科で診療している。 アレルギー疾患内科またはアレルギー科は発生した診療科で対応している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 ④心臓外科 ⑤血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 消化器外科、乳腺外科、心臓外科、血管外科、内分泌外科、小児外科の内容は外科で診療している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ①小児歯科 ②矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

① 形成外科 ② リハビリテーション科 ③ 病理診断科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60 床	床	床	床	822 床	882 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	546人	163人	582.8人	看護補助者	107人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	15人	23人	20.8人	理学療法士	32人	臨床検査技師	71人
薬 剤 師	55人	13人	62.7人	作業療法士	10人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	1人	0.3人	視能訓練士	12人	その他	0人
助産師	36人	2人	36.6人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	814人	48人	851.3人	臨床工学士	30人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	7人
歯科衛生士	5人	0人	5.0人	歯科技工士	1人	事務職員	184人
管理栄養士	13人	6人	18.3人	診療放射線技師	47人	その他の職員	107人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	39人	眼科専門医	16人
外科専門医	36人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	9人	放射線科専門医	12人
小児科専門医	31人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	21人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	23人	救急科専門医	5人
		合 計	243人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (内山 和久) 任命年月日 平成28年4月1日

安全管理委員会2011. 8. 1-2016. 3. 31

医療安全調査委員会2012. 8. 1-2013. 1. 31、2014. 8. 1-2015. 1. 31、2016. 2. 1-2016. 3. 31

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	749.6人	1.7人	751.3人
1日当たり平均外来患者数	1,983.9人	88.5人	2,072.4人
1日当たり平均調剤数	入院 952.7、外来 122.6、合計 1,075.3剤		
必要医師数	193人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	26人		
必要(准)看護師数	449人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	907.2m ²	鉄筋コンクリート	病床数	16床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 24.96 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	1床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40.48 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	213.35m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)自動分析装置AU5800 3台, 生化学・免疫統合型分析装置cobas8000 2台, 全自動免疫装置Architect i4000SR, PCR検査用自動測定装置TaqMan「オート」システムB, 迅速マルチ自動分析装置ディメンションEXL, 全自動アレルギー検査装置UniCAP250, グリコヘモグロビン分析装置 アダムスA1c H A-8181, グルコース分析装置 アダムス グルコース GA-1171			
細菌検査室	130.41m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)自動細菌同定感受性検査装置VITEK2, 自動血液培養・抗酸菌培養装置 Bact/ALERT 3D, LAMP 法リアルタイム濁度測定装置LoopampEXIA			
病理検査室	232.59m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)自動包埋装置、自動染色装置、クリオスタット等			
病理解剖室	111.41m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)解剖台			
研究室	8,277.3m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)ドラフトチャンバー、クリーンベンチ、遠心分離機、顕微鏡、培養機器、滅菌器、冷蔵・冷凍機器、超音波洗浄器、純水製造装置、細胞運動解析装置等			
講義室	1,779.5m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	収容定員	692人

図書室	2,609.97m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵書数	247,000冊程度
-----	------------------------	----------	----	----	-----	------------

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	73.5%	逆紹介率	59.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数		20,558人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,364人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		923人
	D: 初診の患者の数		29,222人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小林 一朗	社会医療法人 仙養会北摂総合病院	○	高槻市医師会の医療安全対策委員会委員であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	有・ 無	1
西 信一	兵庫医科大学 病院		大学附属病院の医療安全管理部長であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	有・ 無	1
家郷 資大	家郷総合法律 事務所		現職の弁護士であり、法律に関する識見を有する者であるため	有・ 無	1
田中 和子			実際に医療を受ける者であり、意見をのべることができる者であるため	有・ 無	2
佐野 浩一	学校法人大阪 医科薬科大学		大学の教員であり、医療等の内容及び説明、同意文書が一般的に理解できるか等の意見をのべることができる者であるため	有 ・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 ホームページの病院案内の病院概要に掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	血液透析併用バルーン塞栓動脈内抗がん剤投与(BOAI)、および、放射線治療の併用療法(膀胱がん)	取扱患者数	172人
<p>当該医療技術の概要:①4L-DB catheterの設置: 両側浅大腿動脈アプローチで7Frシースを留置し、Hook型5Frカテーテルを内腸骨動脈に留置後、0.025インチガイドワイヤーを対側上殿動脈に進め、カテーテル交換法で6 Fr 4-lumen balloon catheter(4L-DB catheter)を挿入する。 ガイドワイヤーを上殿動脈末梢に留置したまま、4L-DB catheterを標的血管の上・下膀胱動脈がバルーンの間位置するように留置し、distal、および、proximalのバルーンにCO2: 1.2mlをそれぞれ注入してバルーンを固定する。この後、デジタルサブトラクション血管造影法(digital subtraction angiography: DSA)を用いた血管造影にて、バルーン間のside holeから注入した造影剤が両側上殿動脈に流入していないこと、両側内腸骨動脈に逆流していないこと、および、両側膀胱動脈また膀胱動脈からの腫瘍血管を鮮明に描出することを確認する。 ②シスプラチン動脈内投与: シスプラチンは、4L-DB catheterのside holeを介して投与される。シスプラチン100mgを3-way manifoldを介して左右両側の4L-DB catheterに均等に配分させ、1時間かけて局所注入する。</p>			
医療技術名	PDDを使用する膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要:生検または手術を行う時に蛍光発色のピークとなるように、生検・手術当日、麻酔前3時間前に20mg/kg (body weight)の5-ALAを経口投与する。生検・手術の際、通常の要領で組織採取または腫瘍摘出を行うとともに、紫外線領域(375-440nm)を選択するフィルターを有する専用ビデオカメラシステムを含めた光力学診断装置を用いて腫瘍の蛍光励起を観察する。この蛍光励起をもとに、小さなsatellite tumorや切除断端腫瘍が残存する可能性の有無を視認し、状況に応じて必要な場合には、組織採取や追加切除を行う。光学的診断の有用性は蛍光励起の程度と採取組織または摘出腫瘍の病理学的診断の対応をもって解析検討する。</p>			
医療技術名	子宮体がんに対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節生検および廓清術	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要:子宮体がん(臨床進行I~II期までの子宮体がんに対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節生検および廓清術を希望する症例)が適応となる。腹腔鏡下手術は、直径5mmから1cmの小穴にトロッカーと呼ばれる煙突のような筒を3-4本挿入し、それからモニターカメラ、鉗子を挿入して手術を行う。</p>			
医療技術名	ダヴィンチS手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡下胃切除術	取扱患者数	4人
<p>当該医療技術の概要:ダヴィンチサージカルシステムを用いたロボット支援胃切除術は、三次元画像による良好な視認性と多関節機能を用いた自由な操作性により、従来の腹腔鏡下胃切除術と比較し、より安全で確実な手術の実現が期待されています。胃癌に対する内視鏡手術支援ロボットによる胃切除術では、腹腔鏡下胃切除術と比較して術後合併症発生率が有意に低下し、切除範囲とリンパ節廓清範囲を拡大しても成績は安定している。</p>			
医療技術名	内視鏡手術支援ロボットによるロボット支援下手術(単純子宮全摘手術、準広汎子宮全摘手術・広汎子宮全摘手術(骨盤リンパ節廓清を伴う))	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要:ダヴィンチサージカルシステムを用いたロボット支援下手術は、三次元画像による良好な視認性と多関節機能を用いた自由な操作性により、従来の腹腔鏡下手術と比較し、より安全で確実な手術の実現が可能になると考えられる。海外ではロボット支援下手術の中で、婦人科腫瘍がもっとも多く施行され、その低侵襲性が報告されています。</p>			
		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	25
2	筋萎縮性側索硬化症	30	57	特発性拡張型心筋症	45
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	17
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	11	60	再生不良性貧血	18
6	パーキンソン病	172	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	24
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	11	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	31	66	IgA 腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	33	68	黄色靱帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	25	69	後縦靱帯骨化症	3
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	12	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	26	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	1	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	7	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	31
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	0	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	40
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	13
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	18
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	12
34	神経線維腫症	3	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	0
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	25
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	5	95	自己免疫性肝炎	25
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	39
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	79
43	顕微鏡的多発血管炎	39	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	22	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	5	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	152	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	75	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	14	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	15	107	全身型若年性特発性関節炎	7
53	シェーグレン症候群	116	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	6	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	0	110	フラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	3
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	22	167	マルファン症候群	16
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	2
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	3
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	膵耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	3
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブロン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	8	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	12	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	5	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	18
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	1
220	急速進行性糸球体腎炎	40	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性腹性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	3
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	15	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	5	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イン吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	3
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	2
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	35
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖尿病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖尿病	0	305	遅発性内リンパ水腫	4
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	11

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	データ提出加算2
歯科外来診療環境体制加算	退院支援加算2
特定機能病院入院基本料(一般)7対1	退院支援加算3
特定機能病院入院基本料(精神)10対1	認知症ケア加算2
超急性期脳卒中加算	精神疾患診療体制加算1
診療録管理体制加算2	精神科急性期医師配置加算
医師事務作業補助体制加算1 (50対1)	特定集中治療室管理料1
急性期看護補助体制加算 (50対1)	ハイケアユニット入院医療管理料1
看護職員夜間配置加算	総合周産期特定集中治療室管理料
療養環境加算	新生児治療回復室入院医療管理料
重症者等療養環境特別加算	小児入院医療管理料1
無菌治療室管理加算(1)	
無菌治療室管理加算(2)	
緩和ケア診療加算	
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊婦管理加算	
ハイリスク分娩管理加算	
呼吸ケアチーム加算	
病棟薬剤業務実施加算1	
病棟薬剤業務実施加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
高度難聴指導管理料	光トポグラフィー
糖尿病合併症管理料	脳波検査判断料1
がん性疼痛緩和指導管理料	神経学的検査
がん患者指導管理料	補聴器適合検査
外来緩和ケア管理料	ロービジョン検査判断料
移植後患者指導管理料	コンタクトレンズ検査料1
糖尿病透析予防指導管理料	小児食物アレルギー負荷検査
院内トリアージ実施料	内服・点滴誘発試験
外来放射線照射診療料	センチネルリンパ節生検(片側)
ニコチン依存症管理料	画像診断管理加算2
がん治療連携計画策定料	ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、
肝炎インターフェロン治療計画料	CT撮影及びMRI撮影
薬剤管理指導料	冠動脈CT撮影加算
医療機器安全管理料1	心臓MRI撮影加算
医療機器安全管理料2	乳房MRI撮影加算
歯科治療総合医療管理料(Ⅰ)及び(Ⅱ)	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	外来化学療法加算1
遺伝学的検査	無菌製剤処理料
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
検体検査管理加算(Ⅳ)	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
国際標準検査管理加算	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
遺伝カウンセリング加算	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	集団コミュニケーション療法料
胎児心エコー法	歯科口腔リハビリテーション料2
ヘッドアップティルト試験	認知療法・認知行動療法2
長期継続頭蓋内脳波検査	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
医療保護入院等診療料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
硬膜外自家血注入	経カテーテル大動脈弁置換術
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
透析液水質確保加算1	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
CAD/CAM冠	補助人工心臓
歯科技工加算1及び2	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	体外衝撃波胆石破碎術
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	腹腔鏡下肝切除術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	生体部分肝移植術
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術、	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
羊膜移植術	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
網膜再建術	同種死体腎移植術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術、植込型骨導補聴器交換術及び人工中耳用材料	生体腎移植術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	膀胱水圧拡張術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び)	腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの))	人工尿道括約筋植込・置換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における
腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻増設術、腹腔鏡下胃瘻増設術を含む。)	
輸血管理料 I	
輸血適正使用加算	
貯血式自己血輸血管理体制加算	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
歯周組織再生誘導手術	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	
麻酔管理料(I)	
麻酔管理料(II)	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	
1回線量増加加算	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
画像誘導密封小線源治療加算	
病理診断管理加算2	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
歯科矯正診断料	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	科学研究費補助金基盤研究(C)
新たな自己抗原INS-IGF2を用いた1型糖尿病発症機構の人間比較	金網 規夫	糖尿病代謝・内分泌内科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
多発性硬化症の治療ターゲット同定を目指した核内受容体TR β 1を介する分子病態解明	中嶋 秀人	神経内科	1,700,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
皮膚筋炎合併間質性肺炎の病態形成機序の解明と疾患制御に向けたバイオマーカーの探索	榎野 茂樹	リウマチ膠原病内科	1,100,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
関節リウマチによる動脈硬化病変の形成促進メカニズムの解明と危険因子の網羅的解析	武内 徹	リウマチ膠原病内科	1,000,000	補	科学研究費補助金基盤研究C
脂肪組織由来幹細胞を用いた間質性肺炎に対する新規治療法のモデルマウスにおける研究	小谷 卓矢	リウマチ膠原病内科	1,200,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
低用量アスピリン起因性小腸傷害の病態解明-腸内細菌の役割-	小嶋 融一	内視鏡センター	1,000,000	補	公益財団法人 大阪難病研究財団
進行期肝細胞癌患者の抗腫瘍効果の改善	土本 雄亮	第二内科	1,000,000	補	公益財団法人 大阪難病研究財団
膵がんの神経湿潤に糖尿病が及ぼす影響の検討	井元 章	第二内科	1,000,000	補	公益財団法人 大阪難病研究財団
糖尿病によるO-GlcNAc修飾の増加が胃及び大腸癌発症に与える影響の検討	樋口 和秀	第二内科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
摂食コントロールによる新しい炎症性腸疾患治療	岡田 俊彦	第二内科	1,500,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
ERストレス誘導性細胞死の制御を標的としたNSAIDs 起因性小腸潰瘍治療戦略	小嶋 融一	内視鏡センター	1,100,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
インフルエンザ罹患後の症候性・無症候性心機能障害の発症頻度とその経過	伊藤 隆英	循環器内科	1,700,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
心サルコイドーシスにおける帯状疱疹ウイルス感染の関与の検討	寺崎 文生	循環器内科	1,100,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
心筋症症例における血清FGF23・ α -Klothoと心リモデリングの関連について	森田 英晃	循環器内科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)

小計 14件

IgG4関連の心血管病変の実態および臨床経過に関する検討	石坂 信和	循環器内科	1,500,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
T1マッピング法を用いた心筋症の組織性状および局所壁運動の評価に関する包括的検討	神崎 裕美子	循環器内科	2,400,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	石坂 信和	循環器内科	400,000	補	厚生労働省科学研究費
タコツボ型心筋症の発症機構の解明—心筋微量元素とストレス蛋白発現の関連	寺崎 文生	循環器内科	50,000	補	日本学術振興会
腎障害患者への急激な塩分制限が腎及び交感神経系に与える影響の検討	森 龍彦	腎臓内科	1,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
医師の利他的行動における動機探索とプロフェッショナルナリズム教育への応用に関する研究	鈴木 富雄	地域総合医療科学寄附講座	1,100,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
統合失調症と双極性障害の間に何があるのか？全ゲノムシーケンスによる遺伝的解明	金沢 徹文	大阪医科大学医学部	3,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
4型胃癌における癌分泌膜小胞由来の新規バイオマーカーの検討	李 相雄	一般・消化器小児外科	1,400,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
Warburg効果調節新規がん遺伝子PTBP1の機能解析による胆膵腫瘍病態の解明	朝隈 光弘	一般・消化器小児外科	1,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
急性肝不全における肥満細胞セリンプロテアーゼ(キマーゼ)の役割	廣川 文鋭	一般・消化器小児外科	1,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
キマーゼ阻害薬・MMP阻害薬を用いた肝類洞閉塞症候の予防および治療効果の検討	米田 浩二	一般・消化器小児外科	1,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
キマーゼの非アルコール性脂肪肝炎における作用メカニズムの解析	田代 圭太郎	一般・消化器小児外科	900,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
劇症肝炎におけるキマーゼ阻害剤の有効性の検討	林 道廣	一般・消化器小児外科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
鏡視下手術死亡の検討と対策	井上 善博	一般・消化器小児外科	1,000,000	委	公益財団法人三井生命厚生財団
ヒト心臓周囲脂肪組織由来細胞を用いた心血管組織再生治療のための研究	勝間田 敬弘	胸部外科	900,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)

自己組織に置換され、伸長する心臓修復パッチの開発	根本 慎太郎	胸部外科	17,195,282	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
絹フィブロイン基盤メディカルシートデバイスと心臓組織修復材料への応用	根本 慎太郎	胸部外科	5,616,000	委	農林水産省
肺循環評価の新しい評価法の開発と診断応用-波動解析法を応用した肺動脈閉塞度の評価	根本 慎太郎	胸部外科	1,400,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)
小児心臓血管外科領域における「吸収-再生-成長」可能なパッチ材料の開発	小澤 英樹	胸部外科	1,100,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)
虚血心筋組織特異的送達ベプチドを用いた胸血性心不全の新規治療法の開発	神吉 佐智子	胸部外科	1,600,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)
慢性心筋虚血に対する温度感応ゲル化ポリマーを担体とした脂肪細胞組織由来幹細胞治療	打田 裕明	胸部外科	1,100,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)
Blalock-Taussing shuntの人工血管流量を調節するデバイスの開発	佐々木 智康	胸部外科	900,000	補	科学研究費補助金若手研究 (B)
創薬分子デザインによる悪性グリオーマの5-ALA光線力学診断・治療の革新	黒岩 敏彦	脳神経外科・脳血管治療科	1,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)
脳放射線壊死の病態解明と新規治療法の確立	宮武 伸一	がんセンター	3,600,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (B)
血管内治療用ロボットの開発	宮地 茂	脳神経外科・脳血管治療科	140,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)
脳動静脈奇形における radiosurgery 前の塞栓術の有用性に関する多施設共同研究	宮地 茂	脳神経外科・脳血管治療科	500,000	補	特定非営利活動法人日本脳神経血管内治療学会 助成研
次世代の5-ALA光線力学診断および治療機器の開発	梶本 宜永	脳神経外科・脳血管治療科	1,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)
特発性正常圧水頭症の無症候病変 (AVIM) の画像診断ソフトの開発	梶本 宜永	脳神経外科・脳血管治療科	200,000	補	一般社団法人 日本脳ドック学会 2016年度 脳ドックの
脳神経外科手術への応用を目指した新規AR型3次元画像診断法の開発	田村 陽史	脳神経外科・脳血管治療科	1,600,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)
腫瘍指向性ホウ素クラスター修飾コウジ酸を用いたホウ素中性子補足療法の有用性	川端 信司	脳神経外科・脳血管治療科	800,000	補	科学研究費補助金基盤研究 (C)

小計 15件

BNCT患者の最適照射位置の簡便迅速高精度な決定法と照射位置のずれ検出装置の開発	川端 信司	脳神経外科・脳血管治療科	500,000	補	科学研究費補助金基盤研究(B)
難治性放射線壊死の克服 ベパシズマブ治療とbeyond bevacizumab	古瀬 元雅	脳神経外科・脳血管治療科	1,000,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
悪性グリオーマ幹細胞を標的化するs-aminolevulinic acid (ALA) 併用X線増感治療法の開発	野々口 直助	脳神経外科・脳血管治療科	1,000,000	補	公益財団法人 大阪コミュニティ財団 2016年4月助成
5-ALA光線力学治療によるグリオーマ幹細胞の治療抵抗性の克服	鯨淵 誉宏	脳神経外科・脳血管治療科	1,000,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
脳腫瘍治療前後のPET代謝画像を用いた画像解析による早期治療効果判定法の開発	松下 葉子	脳神経外科・脳血管治療科	1,800,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
新規ホウ素化ポルフィリンの光線力学的治療およびホウ素中性子補足療法への有用性	平松 亮	脳神経外科・脳血管治療科	1,300,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
半月板損傷におけるヘパラン硫酸およびその酵素の働きと新規治療法の開発	大槻 周平	整形外科	1,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
DDS機能を有する自己組織置換術半月板の開発・事業化	大槻 周平	整形外科	13,288,594	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
小児脂肪性肝疾患の抗酸化療法における新規酸化ストレス評価法の検討	玉井 浩	小児科	1,000,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
母乳脂質濃度調節における核内受容体およびドコサヘキサエン酸の相互作用の解明	瀧谷 公隆	小児科	1,900,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
小児炎症性腸疾患における血中インフリキシマブ・抗インフリキシマブ抗体の測定意義	青松 友槻	小児科	1,200,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
骨髄由来線維芽前駆細胞 Fibrocyteは気管支肺異形成における肺線維化源か?	稲富 直	新生児科	700,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
低出生体重児の学習障害は視覚情報処理障害が原因か?	福井 美保	小児科	1,000,000	補	科研費研究活動スタート支援
小児非アルコール性脂肪性肝疾患における栄養評価の基礎的研究	瀧谷 公隆	小児科	500,000	補	森永奉仕会
卵巣癌分泌エキソソームによる癌微小環境制御機構の解明と次世代がん治療法の開発	佐々木 浩	産婦人科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)

抗癌剤誘発性の卵巣機能不全に対するテストステロンを用いた予防法確立に向けた検討	田辺 晃子	産婦人科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
卵巣癌における腹型エストロゲン受容体GPR30を標的としたEMT現象の制御	藤原 聡枝	産婦人科	1,100,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
不育症に対する新たな治療～骨髄由来血管内皮前駆細胞による血管再生と新規抗血栓薬～	藤田 太輔	産婦人科	1,000,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
卵巣癌のEMTおよび腹膜中皮のMMTに関与するmiRNAの解明と制御に向けた研究	寺井 義人	産婦人科	1,500,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
子宮胎盤形成不全症の新たな治療～骨髄由来内皮前駆細胞の血管形成と新規抗凝固薬～	神吉 一良	産婦人科	1,200,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
子宮頸癌における細胞分泌エクソソームを用いた次世代ドラッグデリバリー治療の開発	林 正美	産婦人科	900,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
肥満による子宮体がん癌関連線維芽細胞活性化メカニズムの解明とその制御	高井 雅聡	産婦人科	900,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
ヒト子宮筋腫組織皮下移植マウスモデル作成とデコリンによる非ホルモン治療の開発	鈴木 裕介	産婦人科	1,100,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
HPVインテグレーションと宿主細胞分泌エキソソームによる子宮頸癌発癌機構の解明	兪 史夏	産婦人科	1,500,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)
GP II アンカー型蛋白質(CD24)のラフト形成と化学療法抵抗性のメカニズム解析	田中 良道	産婦人科	1,100,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
特発性黄斑上膜の発症機序に関する基礎的研究	池田 恒彦	眼科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
P7C3のサーチニン遺伝子賦活化を介した神経保護作用と視神経疾患への応用	奥 英弘	眼科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
リーチングモデルを用いた眼球運動重量型新規視野計の高精度化	植木 麻理	眼科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
アクアポリン4の黄斑浮腫への関与と、その制御による治療	喜田 照代	眼科	1,100,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
加齢黄斑変性に対する局所治療薬の開発	福本 雅格	眼科	1,300,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)

小計 15件

ラット未熟児網膜症モデルにおける電気生理学的研究	河本 良輔	眼科	1,200,000	補	学術研究助成基金助成金若手研究(B)
視神経浮腫に対するaquaporin4(AQP4)阻害剤の効果	喜田 照代	眼科	336,600	補	公益財団法人大阪アイバンク研究助成
耳下腺癌における悪性度の指標となるバイオマーカーの研究－個別化治療を目指して－	河田 了	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
Hunt症候群の発症および予後へのVZV特異的細胞性免疫能の関わりについての研究	萩森 伸一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
スギ花粉症に対する経リンパ節免疫療法の治療応用－皮下および舌下免疫療法との比較－	寺田 哲也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	森脇 真一	皮膚科学	900,000	補	科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	森脇 真一	皮膚科学	800,000	補	科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性
色素性乾皮症の iPS 細胞を用いた病態解明と治療法の開発	森脇 真一	皮膚科学	1,692,308	委	日本医療研究開発機構委託研究開発費
紫外線性DNA損傷修復異常で発症する遺伝性光線過敏症の放射線安全性に関する研究	森脇 真一	皮膚科学	1,000,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
皮膚バリア機能障害を伴う皮膚疾患を対象としたラマン分光装置を用いた角層天然保湿因子の解	谷崎 英昭	皮膚科学	1,000,000	補	コスメトロジー研究振興財団研究基金
癌細胞選択的破壊「硼素膀胱局所動注+中性子照放」による新規膀胱温存療法	東 治人	腎泌尿器外科	400,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
画期的核酸デリバリキャリアを用いたmicroRNA-145による膀胱癌治療	稲元 輝生	腎泌尿器外科	800,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
骨盤腫瘍における標本体積内同時ブースト強度変調小線源治療の開発	吉田 謙	放射線科	900,000	補	科学研究費補助金基盤研究(C)
低酸素細胞標識PET分子イメージングで、KORTUCの線量分布向上を可視化研究	新保 大樹	放射線科	1,000,000	補	科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究
ドラッグリポジショニングによる放射線肺障害に対する予防・軽減薬の開発	吉川 信彦	放射線科	1,600,000	補	科学研究費補助金若手研究(B)

神経障害性痛におけるグリア細胞の役割の解明と新規治療薬の開発	南 敏明	麻酔科学教室	2,900,000	補	平成28年度 日本学術振 興会科学研 究費補助金
全身麻酔による呼吸抵抗及び呼吸リアクタンスの変化	中平 淳子	麻酔科学教室	500,000	補	科学研究費 補助金挑戦 的萌芽研究
評価型シミュレーターを用いた気道管理器具侵襲性の網羅的評価と新規開発の基礎研究	駒澤 伸泰	麻酔科学教室	900,000	補	科学研究費 補助金若手 研究 (B)
頭蓋縫合早期癒合症に対する低侵襲治療の開発：FGF2による早期癒合抑制効果の証明	塗 隆志	形成外科	1,400,000	補	科学研究費 補助金基盤 研究 (C)
混酸・加熱処理と選択的レーザー溶融法を応用した次世代骨誘導チタンメッシュの創成	植野 高章	口腔外科学教室	1,000,000	補	科学研究費 補助金基盤 研究 (C)
ボツリヌス毒素を用いた痙攣抑制による中枢神経の組織構造変化に関する研究	佐浦 隆一	リハビリテーション医学教室	400,000	補	科学研究費 助成事業挑 戦的萌芽研 究
高度腹膜転移胃癌に対する標準化学療法の確立に関する研究	後藤 昌弘	化学療法センター	400,000	委	日本医療研 究開発機構
超高齢者社会における治療困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究	後藤 昌弘	化学療法センター	300,000	委	日本医療研 究開発機構
高度腹膜転移胃癌に対する標準化学療法の確立に関する研究	後藤 昌弘	化学療法センター	400,000	委	日本医療研 究開発機構
超高齢者社会における治療困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究	後藤 昌弘	化学療法センター	300,000	委	日本医療研 究開発機構
免疫グロブリン大量療法の効率化を目標とした7α活性化マクロファージ抑制法の開発	能見 勇人	血液浄化センター	900,000	補	科学研究費 補助金 基盤研究 (C)
アトピー性皮膚炎患児を抱える家族のためのグループ療法 (CARE-AD) の開発	上田 英一郎	大阪医科大学医療管理室	1,400,000	補	科学研究費 補助金 基盤研究 (C)

計 101件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hisashi Imbe, Hiroyuki Sano, Masahiro Miyawaki 他	糖尿病代謝内分泌内科	" Benifuuki" green tea, containing O-methylated EGCG, reduces serum low-density lipoprotein cholesterol and lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 ligands containing apolipoprotein B: A double-blind, placebo-controlled randomized trial.	Journal of Functional Foods. 2016 Aug;25: 25-37	Original Article
2	Satoshi Sakai , Keiji Tanimoto, Ayumi Imbe 他	糖尿病代謝内分泌内科	Decreased β -Cell Function Is Associated with Reduced Skeletal Muscle Mass in Japanese Subjects without Diabetes.	PLOS ONE September9, 2016. 11 (9) : e0162603.	Original Article
3	Nakajima H, Yamane K, Kimura F 他	神経内科	Optic perineuritis associated with antineutrophil cytoplasmic autoantibody-related hypertrophic pachymeningitis: a case report.	Neurol Sci. 2016 Apr: 37 (4) :641-643	Case report
4	Hosokawa T, Nakajima H, Unoda K 他	神経内科	Serial electrophysiological findings in Guillain-Barré syndrome not fulfilling AIDP or AMAN criteria.	J Neurol. 2016 Sep; 263 (9) :1709-1718	Original Article
5	Nakajima H, Yamane K, Kimura F 他	神経内科	cytoplasmic autoantibody-related hypertrophic pachymeningitis a case report.	Neurol Sci. 2016 Apr;37 (4) :641-3.	Case report
6	Kotani T, Takeuchi T, Yochimatsu Y 他	リウマチ膠原病内科	Initial limited three-level thin-section computed tomography scorings predict the prognosis of acute/subacute interstitial pneumonia in patients with dermatomyositis	Mod Rheumatol. 2016 Sep 26 (5) :738-43.	Original Article

7	Wakura D, Kotani T, Takeuchi T 他	リウマチ膠原病内科	Differentiation between Polymyalgia Rheumatica (PMR) and Elderly-Onset Rheumatoid Arthritis Using 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography: Is Enthesitis a New Pathological Lesion in PMR?	PLoS One. 2016 Jul 11; e0158509.	Original Article
8	Yokohama K, Fukunichi S, Li M 他	消化器内科	Rosuvastatin as a potential preventive drug for the development of hepatocellular carcinoma associated with non-alcoholic fatty liver disease in mice.	Int J Mol Med. 2016 Nov;38 (5) :1499-1506.	Original Article
9	Ota K, Takeuchi T, Nouda S 他	消化器内科	Determination of the adequate dosage of rebamipide, a gastric mucoprotective drug, to prevent low-dose aspirin-induced gastrointestinal mucosal injury.	J Clin Biochem Nutr. 2016 Nov;59 (3) :231-237.	Original Article
10	Ogura T, Takagi W, Onda S 他	消化器内科	Intraductal necrosectomy for pancreatic walled-off necrosis using novel single-operator pancreatoscope.	Endoscopy. 2016 0;48 (S 01) :E343.	Others
11	Kojima Y, Takeuchi T, Egashira Y 他	消化器内視鏡センター	Endoscopic Submucosal Dissection for Gastric Arteriovenous Malformation.	Intern Med. 2016;55 (21) :3221-3223.	Case report
12	Ogura T, Higuchi K	消化器内科	A review of treatment options for bile duct stones.	Expert Rev Gastroenterol Hepatol. 2016 Nov;10 (11) :1271-1278.	Review
13	Ogura T, Takagi W, Ueno S 他	消化器内科	Endoscopic hemostasis for tumor bleeding using intraductal radiofrequency ablation.	Endoscopy. 2016 0;48 (S 01) :E328-E329.	Others
14	Ogura T, Onda S, Takagi W 他	消化器内科	Placement of a 6 mm, fully covered metal stent for main pancreatic head duct stricture due to chronic pancreatitis: a pilot study (with video).	Therap Adv Gastroenterol. 2016 Sep;9 (5) :722-8.	Others

15	Ogura T, Takagi W, Kurisu Y 他	消化器内科	Technical tips for peroral transluminal cholangioscopy using novel single-operator cholangioscope (with videos).	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2016 Oct;23 (10):E25-E29.	Others
16	Ogura T, Onda S, Takeuchi T 他	消化器内科	Transduodenal necrosectomy for acute cholecystitis with the use of a novel single-operator cholangioscope.	Gastrointest Endosc. 2016 Dec;84 (6):1056-1057.	Others
17	Masuda D, Ogura T, Imoto A 他	消化器内科	Choledochoduodenal Fistula after the Placement of a Partially Covered Metal Stent for Unresectable Pancreatic Cancer.	Intern Med. 2016;55 (12):1591-7.	Case report
18	Onda S, Ogura T, Kurisu Y 他	消化器内科	EUS-guided FNA for biliary disease as first-line modality to obtain histological evidence.	Therap Adv Gastroenterol. 2016 May;9 (3):302-12.	Original Article
19	Ogura T, Higuchi K	消化器内科	Technical tips for endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy	World J Gastroenterol. 2016 Apr 21;22 (15):3945-51.	Review
20	Ogura T, Matsuda D, Takeuchi T 他	消化器内科	Visualization and removal of intrahepatic bile duct stones through EUS-guided hepaticogastrostomy	Gastrointest Endosc. 2016 Sep;84 (3):531-2	Case report
21	Takeuchi T, Higuchi K	消化器内科	Endoscopic Detection of Gastric Carcinoma After Helicobacter pylori Eradication: More Difficult or Just Hype?	Dig Dis Sci. 2016 Jun;61 (6):1422-3.	Others
22	Ogura T, Matsuda D, Takeuchi T 他	消化器内科	Fistula formation after EUS-guided hepaticogastrostomy	Gastrointest Endosc. 2016 Aug;84 (2):365.	Case report
23	Ogura T, Masuda D, Takeuchi T 他	消化器内科	Intraluminal water filling technique to prevent double mucosal puncture during EUS-guided choledochoduodenostomy.	Gastrointest Endosc. 2016 Apr;83 (4):834-5.	Case report
24	Ogura T, Masuda D, Takeuchi T 他	消化器内科	Simplified reintervention method of EUS-guided hepaticogastrostomy stent obstruction.	Gastrointest Endosc. 2016 Apr;83 (4):831.	Case report

25	Nakayama S, Yokote T, Hiraoka N, 他	血液内科	Role of mast cells in fibrosis of classical Hodgkin lymphoma.	Int J Immunopathol Pharmacol. 2016 Dec 29 (4) :603-611. 2016	Original Article
26	Nishiwaki U, Nakayama S, Yokote T 他	血液内科	Multiple cytokine-producing primary cutaneous anaplastic large cell lymphoma.	Ann Hematol. 2016 Aug 95 (8) :1369-70. 2016	Case report
27	Nakayama S, Yokote T.	血液内科	Parathyroid hormone-related protein-producing cyclin D3-positive blastoid variant of mantle cell lymphoma with hypercalcemia.	Blood. 2016 Oct 128 (14) :1903. 2016	Case report
28	Nishiwaki U, Nakayama S, Yokote T 他	血液内科	Classical Hodgkin lymphoma producing macrophage colony-stimulating factor with resultant monocytosis.	Br J Haematol. 2017 Feb 176 (3) :343	Case report
29	Nakayama S, Yokote T, Akioka T 他	血液内科	Infiltration of effector regulatory T cells predicts poor prognosis of diffuse large B-cell lymphoma, not otherwise specified	Blood Advances. 1 (8) :486-493. March 14, 2017	Original Article
30	Hourai R, Kasashima S, Sohmiya K 他	循環器内科	IgG4-positive cell infiltration in various cardiovascular disorders - results from histopathological analysis of surgical samples.	BMC Cardiovasc Disord. 2017 Feb 3;17 (1) :52.	Original Article
31	Fujita SI, Tanaka S, Maeda D, Morita 他	循環器内科	Serum Soluble Urokinase-Type Plasminogen Activator Receptor Is Associated with Low Left Ventricular Ejection Fraction and Elevated Plasma Brain-Type Natriuretic Peptide Level.	PLoS One. 2017 Jan 30;12 (1) :e0170546. (オンライン)	Original Article
32	Fujita S, Takahashi H, Kanzaki Y 他	循環器内科	Primary Leiomyosarcoma in the Inferior Vena Cava Extended to the Right Atrium: A Case Report and Review of the Literature.	Case Rep Oncol. 2016 Oct 12;9 (3) :599-609.	Case report
33	Terasaki F, Ishizaka N.	循環器内科	Reversal of cardiac remodeling after treatment of IgG4 related cholangitis - Possibility of IgG4-related heart disease?	Int J Cardiol. 2016 Nov 15;223:477-478.	Letter

34	Tanaka S, Fujita S, Kizawa S 他	循環器内科	Association between FGF23, α -Klotho, and Cardiac Abnormalities among Patients with Various Chronic Kidney Disease Stages.	PLoS One. 2016 Jul 11;11 (7) :e0156860. (オンライン)	Original Article
35	Terasaki F, Ishizaka N.	循環器内科	Cardiac Sarcoidosis and Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy - Potential Differential Diagnoses for Arrhythmogenic Ventricular Cardiomyopathy.	Intern Med. 2016;55 (9) :1041-2.	Others
36	Kanzaki Y, Yuki M, Yamamura K 他	循環器内科	Is cardiac and hepatic iron status assessed by MRI T2* associated with left ventricular function in patients with idiopathic cardiomyopathy?	Heart Vessels. 2016 Dec;31 (12) :1950-1959.	Original Article
37	Morita H, Ishizaka N.	循環器内科	In Search of an Optimal Target Level of Low Density Lipoprotein Cholesterol for Secondary Prevention Among the Japanese Population.	J Atheroscler Thromb. 2016;23 (4) :397-8.	Letter
38	Hourai R, Miyamura M, Tasaki R 他	循環器内科	A case of IgG4-related lymphadenopathy, pericarditis, coronary artery periarteritis and luminal stenosis.	Heart Vessels. 2016 Oct;31 (10) :1709-13.	Case report
39	Miyamura M, Takahashi H, Ishizaka N.	循環器内科	Double aortic arch and dilated cardiomyopathy in an elderly man.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2017 Mar;25 (3) :243.	Letter
40	Hoshiga M.	循環器内科	Gelatinase and Vulnerability of Atherosclerotic Plaque.	J Atheroscler Thromb. 2016 Jul 1;23 (7) :766-8.	Others
41	Hideaki Shima, Tatsuhiko Mori, Masayuki Ooi 他	腎臓内科	Silent Cerebral Microbleeds and Longitudinal Risk of Renal and Cardiovascular Events in Patients with CKD	Clin J Am Soc Nephrol. 2016 Sep 7;11 (9) :1557-65.	Original Article

42	Kawano M, Kanazawa T, Kikuyama H 他	精神神経科	Correlation between frontal lobe oxy-hemoglobin and severity of depression assessed using near-infrared spectroscopy.	J Affect Disord. 2016 Nov 15;205:154-158.	Original Article
43	Kinoshita S, Kanazawa T, Kikuyama H 他	精神神経科	Clinical application of DEX/CRH test and multi-channel NIRS in patients with depression.	Behav Brain Funct. 2016 Aug 31;12 (1) :25.	Original Article
44	Taniguchi K, Sakai M, Sugito N 他	消化器外科	PKM1 is involved in resistance to anti-cancer drugs	Biochem Biophys Res Commun. 2016 Apr 22;473 (1) :174-180.	Original Article
45	Lee SW, Kawai M, Tashiro K 他	消化器外科	Laparoscopic gastrointestinal anastomoses using knotless barbed absorbable sutures are safe and reproducible: a single-center experience with 242 patients	Jon J Clin Oncol. 2016 Apr;46 (4) :329-35.	Original Article
46	Kimura K, Tanaka S, Iwamoto M 他	消化器外科	Outpatient management without initial assessment for febrile patients undergoing adjuvant chemotherapy for breast cancer	Mol Clin Oncol. 2016 Oct;5 (4) :385-390.	Original Article
47	Fujioka H, Sakai A, Tanaka S 他	消化器外科	Comparative proteomic analysis of paclitaxel resistance-related proteins in human breast cancer cell lines	Oncol Lett. 2017 Jan;13 (1) :289-295.	Original Article
48	Inoue Y, Imai Y, Osumi W 他	消化器外科	What is the optimal timing for liver surgery of resectable synchronous liver metastases from colorectal cancer?	Am Surg. 2017 Jan 1;83 (1) :45-53.	Original Article
49	Kiyoshi Sato, Fumimoto S, Fukada T 他	心臓血管外科	Bronchial artery aneurysm suggested to be caused by metallic tracheal stent migration	Surgical Case Reports 2016 Dec 2:125-127 (オンライン)	Case report
50	Ohnishi H, Miyachi S, Murao K 他	脳神経外科	Infiltrated Embolization of Meningioma with Dilute Cyanoacrylate Glue.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2017 Jan 15;57 (1) :44-50.	Original Article

51	Hiramatsu R, Miyachi S, Ohnishi H 他	脳神経外科	Usefulness of Three-dimensional Stereoscopic images for Cerebral Endovascular Treatment.	Journal of Neuroendovascular Therapy Vol. 10 (2016) No. 5 p. 291-296	Original Article
52	Miyatake SI, Kawabata S, Hiramatusu T 他	脳神経外科	Boron Neutron Capture Therapy for Malignant Brain Tumors.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 Jul 15;56 (7) :361-71.	Original Article
53	Ikeda N, Hayashi H, Goto M 他	脳神経外科	Posterior atlantoaxial fusion as treatment option for extracranial vertebral artery dissecting aneurysm: a case report and literature review	Acta Neurochir (Wien). 2016 Sep;158 (9) :1741-4.	Case report
54	Hasegawa A, Yonezawa T, Taniguchi N 他	整形外科	Role of Fibulin 3 in Aging-Related Joint Changes and Osteoarthritis Pathogenesis in Human and Mouse Knee Cartilage.	Arthritis Rheumatol. 2017 Mar;69 (3) :576-585.	Original Article
55	Fukumoto S, Nakano A, Obo T 他	整形外科	Spinal nerve root transection caused by spinal instability after osteoporotic vertebral collapse: A case report.	J Orthop Sci. 2017 Mar;22 (2) :366-370.	Case report
56	Hasegawa A, Mihata T, Yasu K 他	整形外科	Intra- and Inter- rater Agreement on Magnetic Resonance Imaging Evaluation of Rotator Cuff Integrity After Repair.	Arthroscopy. 2016 Dec;32 (12) :2451-2458.	Original Article
57	Ohno K, Hirohiji S, Fujino K 他	整形外科	Sonographic monitoring of endoscopic carpal tunnel release.	J Clin Ultrasound. 2016 Nov 12;44 (9) :597-599.	Others
58	Okamoto Y, Nakajima M, Jotoku T 他	整形外科	Capsular release around the intercondylar notch increases the extension gap in posterior- stabilized rotating-platform total knee arthroplasty.	Knee. 2016 Aug;23 (4) :730-5.	Original Article
59	Yasuda T, Shima H, Mori K 他	整形外科	Direct Repair of Chronic Achilles Tendon Ruptures Using Scar Tissue Located Between the Tendon Stumps.	J Bone Joint Surg Am. 2016 Jul 20;98 (14) :1168-75.	Original Article

60	Itami Y, Mihata T, Shibano K 他	整形外科	Site and Severity of the Increased Humeral Retroversion in Symptomatic Baseball Players: A 3-dimensional Computed Tomographic Analysis	Am J Sports Med. 2016 Jul;44 (7) :1825-31.	Original Article
61	Mihata T, McGarry MH, Kahn T 他	整形外科	Biomechanical Role of Capsular Continuity in Superior Capsule Reconstruction for Irreparable Tears of the Supraspinatus Tendon.	Am J Sports Med. 2016 Jun;44 (6) :1423-30.	Original Article
62	Mihata T, Takada A, Kawakami T 他	整形外科	Isolated glenohumeral range of motion, excluding side-to- side difference in humeral retroversion, in asymptomatic high- school baseball players.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2016 Jun;24 (6) :1911-7.	Original Article
63	Takitani K, Miyazaki H, Koh M 他	小児科	Dehydroepiandroster one Alters Retinol Status and Expression of the β -Carotene 15,15'- Monooxygenase and Lecithin:Retinol Acyltransferase Genes.	J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 2016;62 (1) :12-8. doi: 10.3177/jnsv.62.12.	Original Article
64	Daimon A, Terai Y, Nagayasu Y 他	産婦人科	A Case of Intestinal Obstruction in Pregnancy Diagnosed by MRI and Treated by Intravenous Hyperalimentation.	Case Rep Obstet Gynecol. 2016;2016:8704035. (オンライン)	Case report
65	Tanaka T, Terai W, Ashihara K 他	産婦人科	The detection of sentinel lymph nodes in laparoscopic surgery for uterine cervical cancer using 99m- technetium-tin colloid, indocyanine green, and blue dye	J Gynecol Oncol. 2017 Mar;28 (2) :e13. (オンライン)	Original Article
66	Kanki K, Li M, Terai Y 他	産婦人科	Bone Marrow-Derived Endothelial Progenitor Cells Reduce Recurrent Miscarriage in Gestation.	Cell Transplant. 2016 Dec 13 25 (12) :2187-2197, 2016	Original Article
67	Sato T, Kohmoto R, Fukumoto M 他	眼科	A Case of Diabetic Macular Edema with Prominent Chorioretinal Folds.	Case Rep Ophthalmol. 2017 Mar 7;8 (1) :163-169.	Case report

68	Fukiyama Y, Oku H, Hashimoto Y 他	眼科	Complete Recovery from Blindness in Case of Compressive Optic Neuropathy due to Unruptured Anterior Cerebral Artery Aneurysm.	Case Rep Ophthalmol. 2017 Mar 7;8 (1) :157-162.	Case report
69	Takagi M, Oku H, Kida T 他	眼科	Case of Primary Leptomeningeal Lymphoma Presenting with Papilloedema and Characteristics of Pseudotumor Syndrome.	Neuroophthalmology. 2017 Mar 23;41 (3) :149-153.	Case report
70	Nishikawa Y, Morishita S, Nakamura K 他	眼科	Two Cases of Proliferative Diabetic Retinopathy with Marked Sheathing of the Retinal Arteries following Vitrectomy.	Case Rep Ophthalmol. 2017 Jan 24;8 (1) :40-48.	Case report
71	Oku H, Miyachi S, Ikeda T	眼科	One-Sided Headache Is a Symptom Suggesting Aneurysmal Lesion in Patients with Isolated Abducens Nerve Palsy.	Neuroophthalmology. 2016 Nov 18;41 (1) :35-38.	Original Article
72	Kobayashi T, Katsumura C, Shoda H 他	眼科	A Case of Syphilitic Uveitis in Which Vitreous Surgery Was Useful for the Diagnosis and Treatment.	Case Rep Ophthalmol. 2017 Jan 26;8 (1) :55-60.	Case report
73	Nemoto E, Morishita S, Akashi M 他	眼科	A Case of Proliferative Retinopathy Complicated with Tuberos Sclerosis Treated by Vitreous Surgery.	Case Rep Ophthalmol. 2016 Dec 1;7 (3) :277-283.	Case report
74	Oku H, Morishita S, Horie T 他	眼科	Protective effect of P7C3 on retinal ganglion cells from optic nerve injury.	Jpn J Ophthalmol. 2017 Mar;61 (2) :195-203.	Original Article
75	Nishida Y, Fukumoto M, Kida T 他	眼科	Transmuscular Migration of a Scleral Tunnel-Secured Encircling Silicone Band.	Case Rep Ophthalmol. 2016 Sep 16;7 (3) :138-141.	Original Article
76	Kida T, Flammer J, Oku H 他	眼科	Suppressed endothelin-1 by anti-VEGF therapy is important for patients with BRVO-related macular edema to improve their vision.	EPMA J. 2016 Aug 24;7 (1) :18.	Original Article

77	Suzuki H, Kakurai K, Morishita S 他	眼科	Vitreotomy for Tractional Retinal Detachment with Twin Retinal Capillary Hemangiomas in a Patient with Von Hippel-Lindau Disease	Case Rep Ophthalmol. 2016 Jun 13;7 (2) :333-40.	Original Article
78	Miki M, Miyamoto M, Mitsutsuji T 他	眼科	A Case of a Newborn with Agensis of the Corpus Callosum Complicated with Ocular Albinism.	Case Rep Ophthalmol. 2016 May 10;7 (1) :268-73.	Case report
79	Terubayashi Y, Kida T, Fukumoto M 他	眼科	Long-Term Follow-Up Case of Multiple Retinal Arterial Macroaneurysms Developing Branch Retinal Vein Occlusion following Ruptured Macroaneurysm.	Case Rep Ophthalmol. 2016 May 19;7 (1) :243-8.	Original Article
80	Mimura M, Ueki M, Oku H 他	眼科	Evaluation of granulation tissue formation in lacrimal duct post silicone intubation and its successful management by injection of prednisolone acetate ointment into the lacrimal duct.	Jpn J Ophthalmol. 2016 Jul;60 (4) :280-5.	Original Article
81	Tajiri K, Sugiyama T, Katsumura K	眼科	Suppression of Conjunctival Scarring by Chymase Inhibitor in a Canine Symblepharon Model.	Int J Ophthalmol Eye Res, S7:002, 6-12. October 2016	Original Article
82	Nishikawa Y, Oku H, Morishita S 他	眼科	Negative impact of AQP-4 channel inhibition on survival of retinal ganglion cells and glutamate metabolism after crushing optic nerve.	Exp Eye Res. 2016 May;146:118-27.	Original Article
83	Kuwabara H, Nishikado A, Hayasaki H 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Characteristic Formation of Hyaluronan- Cartilage Link Protein- Proteoglycan Complex in Salivary Gland Tumors.	Appl Immunohistochem Mol Morphol 24:373-81, 2016 May	Original Article
84	Higashino M, Kawata R, Omura S 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Outcomes of Tracheostomy Closure in Oral Cancer Surgery Patients.	J Otol Rhinol, 5: 1-5, 2016 Published: April 27, 2016	Original Article

85	Komura K, Jeong SH, Hinohara K 他	腎泌尿器外科	Resistance to docetaxel in prostate cancer is associated with androgen receptor activation and loss of KDM5D expression.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2016 May 113 (22):6259-64, 2016. 05	Original Article
86	Takai T, Yoshikawa Y, Inamoto T 他	腎泌尿器外科	A Novel Combination RNAi toward Warburg Effect by Replacement with miR-145 and Silencing of PTBP1 Induces Apoptotic Cell Death in Bladder Cancer Cells.	International Journal of Molecular Sciences. 18 (1):Online Journal, 2017. 01 (オンライン)	Original Article
87	Inamoto T, Azuma H	腎泌尿器外科	Editorial Comment to Is it necessary to carry out intraoperative retrograde upper urinary tract cytology examination in bladder cancer patients with normal upper urinary tract appearance and suspicious or positive voided urine cytology?	Int J Urol. 2016 Jul;23 (7):625.	Original Article
88	Hiroshi Juri, Yamamoto K, Narumi Y	放射線科	Analyses of the Anatomy of the Ureter near Ureterovesical Junction on the Unenhanced CT:	Open Journal of Radiology. 6:84-91, 2016 published 2 June 2016	Original Article
89	Komori T, Narabayashi J, Narumi Y 他	放射線科	Clinical Outcomes of 67 Patients Treated with Chemoradiotherapy for Primary Thyroid Non-Hodgkin's Lymphoma in Osaka Medical College:	Journal of Cancer Therapy, 7 (5), 2016 published 5 May 2016	Original Article
90	Yamamoto K, Yamamoto Ka, Nakai G 他	放射線科	Novel Software-Assisted Hemodynamic Evaluation of Pelvic Flow During Chemoperfusion of Pelvic Arteries for Bladder Cancer: Double-Versus Single-Balloon Technique:	Cardiovascular and Interventional Radiology. 2016 Jun;39 (6):824-30.	Original Article
91	Junko Nakahira, Shoko Nakano, Toshiyuki Sawai 他	麻酔科	Factors causing post-anesthetic high respiratory resistance in patients undergoing transurethral resection of bladder tumors.	Anesthesiology and Pain Medicine. 2017 Jan (In Press):e44553, (オンライン)	Original Article

92	Shoko Nakano, Junko Nakahira, Yosuke Kuzukawa 他	麻醉科	The Effects of Endotracheal Tube and i-gel® Supraglottic Airway Device on Respiratory Impedance: A Prospective Observational Study.	Anesthesiology and Pain Medicine. 2017 Feb;7 (1) :e42964 (オンライン)	Original Article
93	Shoko Nakano, Junko Nakahira, Toshiyuki Sawai 他	麻醉科	Perioperative evaluation of respiratory impedance using the forced oscillation technique: a prospective observational study.	BMC Anesthesiology. 2016 Jul;16 (1) :32. (オンライン)	Original Article
94	Junko Nakahira, Yosuke Kuzukawa, Shoko Nakano 他	麻醉科	Usefulness of evaluation with a forced oscillation technique during the perioperative period.	Paediatric Anaesthesia. 2016 May;26 (5) :564	Letter
95	Takeshi Ueno, Nobuyasu Komasa- wa, Nozomi Majima 他	麻醉科	Tracheal Tube Position Shift during Infant Resuscitation by Chest Compression: A Simulation Comparison by Fixation Method and with or without Cuff	Journal of Emergency Medicine 2016 Apr;50:601-606	Original Article
96	Kazuo Hattori, Nobuyasu Komasa- wa, Yu Miyazaki 他	麻醉科	Muscle relaxant facilitates i-gel® insertion by novice doctors: A prospective randomized controlled trial	Journal of Clinical Anesthesia 2016 Sep;33:218-222	Original Article
97	Junichi Ishio, Nobuyasu Komasa- wa, Yu Miyazaki 他	麻醉科	LMA-ProSeal™ insertion by novice doctors as affected by a 90 degree bend created by an intubating stylet: a randomized clinical trial	Journal of Clinical Anesthesia 2016Nov;34:145-150	Original Article
98	Shiho Deguchi, Nobuyasu Komasa- wa, Haruki Kido 他	麻醉科	Impact of Pillow Height on Double-lumen Endotracheal Tube Intubation with McGrath® MAC: A Prospective Randomized Clinical Trial	Journal of Clinical Anesthesia 2016 Nov;34:339-343	Original Article
99	Shiho Deguchi, Nobuyasu Komasa- wa, Takeshi Ueno 他	麻醉科	Evaluation of pH on removed tracheal tubes after general anesthesia: A prospective observational study	Journal of Clinical Anesthesia 2016 Dec;35:346-349	Original Article

100	Ueda K, Nuri T, Shigemura Y.	形成外科	Malar Reconstruction Using Y-V Advancement Flaps after Tissue Expansion in Treacher Collins Syndrome.	Plast Reconstr Surg Glob Open 4(5):e715 2016 May (オンライン)	Original Article
101	Ueda K, Nuri T, Otsuki Y	形成外科	Construction of a Flap That Can Move Functionally in Surgical Facial Repair.	Plast Reconstr Surg Glob Open 4(6):e750 2016 Jun (オンライン)	Others
102	Mikito Inaba, Haruhiko Terai, Yoichiro Nakajima 他	歯科口腔外科	Usefulness of oral administration of the specialized amino acid supplement consisting of β -hydroxy- β -methylbutyrate, L-arginine and L-glutamine (AboundTM) for chronic soft tissue diseases in the mouth.	Journal of food science & technology. (1(4): 1-5, 2016.) Publication Date 22-07-2016 (オンライン)	Others
103	Yoichiro Nakajima, Takaaki Ueno, Nahoko Kato 他	歯科口腔外科	Study on Suitability of Grafted Bone Following Mandibular Reconstruction Evaluated According to Masticatory Performance Scores Using Half-Portion Gummi Jelly	Journal of Hard Tissue Biology. (25(4): 247-430, 2016.) Released 20161005	Others
104	Akihiro Sunano, Nozomu Fukui, Miwa Kanou 他	歯科口腔外科	Histological evaluation of alveolar bone ridge augmented with Platelet-rich Fibrin and Artificial Bone.	Journal of Oral Tissue Engineering (14(1):15-20, 2016.) Released 20161030	Original Article
105	Yoichiro Nakajima, Takaaki Ueno, Nahoko Kato 他	歯科口腔外科	Clinical analysis of surgical guide plate to provide bone suitability in mandibular reconstruction.	Journal of Oral Tissue Engineering (14(1): 51-58, 2016.) Released 20161030	Original Article
106	Taniguchi K, Iida R, Watanabe I 他	救急医療部	Ileo-ileal knot: a rare case of acute strangulated intestinal obstruction	Nagoya J. Med. Sci. 2017 Feb;79(1):109-113	Case report
107	Shimoyama Y, Sawai T, Umegaki O 他	集中治療部	Sudden onset of severe pulmonary edema after emergency cesarean section	JA Clinical Reports 2016;23 Published: September 2016 (オンライン)	Case report

108	Shimoyama Y, Umegaki o, Agui T 他	集中治療部	Anti-NMDA receptor encephalitis presenting as an acute psychotic episode misdiagnosed as dissociative disorder: a case report	JA Clinical Reports20162:22 Published:September 2016 (オンライン)	Case report
109	Hajime Hirano, Kyoko Mori, Noriko Hirano 他	血液浄化センター	Successfully Treatment of Microscopic Polyangiitis (MPA) in an Elderly Patient With Extremely High-Titer for Myeloperoxidase-Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibodies (MPO-ANCA): A Case Report.	RHEUMATOLOGY. 56 (3) :79 . 2017. 03	Case report
110	Yamada T, Kato R, Oda K 他	感染対策室・薬剤部	False Prolongation of Prothrombin Time in the Presence of a High Blood Concentration of Daptomycin	Basic & Clinical Pharmacology & Toxicology, 119, 353-359, 2016 Oct (オンライン)	Original Article

計110件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 基本事項、委員会審査運営、申請手続・審査手順について 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 7 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 大阪医科大学利益相反ポリシー 大阪医科大学利益相反マネジメント規程 大阪医科大学研究の利益相反に関する指針 大阪医科大学研究の利益相反に関する指針施行細則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の要点と体制整備 「倫理指針の改定ならびに臨床研究法の説明」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を修了した医師及び歯科医師を対象とする研修は、医療法施行規則第六条の四第一項に規定する診療科ごとにそれぞれの診療領域における臨床経験 10 年以上を有する者を研修統括者として定め、主に基本領域専門医資格もしくはサブスペシャリティ専門医資格を取得することを目的とし、それぞれの学会が定めた専門的な研修プログラムに則り実施している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 102 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
今川 彰久	糖尿病代謝・内分泌内科	科長	28年	
荒若 繁樹	神経内科	科長	26年	
後藤 功	呼吸器内科	科長	32年	
槇野 茂樹	リウマチ膠原病内科	科長	34年	
樋口 和秀	消化器内科	科長	35年	
秋岡 寿一	血液内科	科長	23年	
石坂 信和	循環器内科	科長	31年	
森 龍彦	腎臓内科	科長	28年	
鈴木 富雄	総合診療科	科長	26年	
米田 博	精神神経科	科長	38年	
田中 慶太郎	一般・消化器・小児外科	科長	26年	
岩本 充彦	乳腺・内分泌外科	科長	24年	
花岡 伸治	呼吸器外科	科長	29年	
勝間田 敬弘	心臓血管外科・小児心臓血管外科	科長	29年	
黒岩 敏彦	脳神経外科・脳血管内治療科	科長	38年	
根尾 昌志	整形外科	科長	34年	
玉井 浩	小児科	科長	38年	
荻原 亨	新生児科	科長	35年	
寺井 義人	産科・生殖医学科	科長	25年	
大道 正英	婦人科・腫瘍科	科長	33年	
池田 恒彦	眼科	科長	35年	
河田 了	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	33年	
森脇 真一	皮膚科	科長	31年	
東 治人	腎泌尿器外科	科長	29年	
鳴海 善文	放射線科診断科・放射線治療科	科長	35年	
南 敏明	麻酔科・ペインクリニック	科長	30年	
上田 晃一	形成外科	科長	33年	
佐浦 隆一	リハビリテーション科	科長	31年	
高須 朗	救急科	科長	31年	
植野 高章	歯科口腔外科	科長	28年	
栗栖 義賢	病理診断科	科長	29年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ①エクアシールド混合調製実施研修(抗がん剤曝露対策) 対象;医師・看護師
- ②安全な薬剤管理・与薬のポイント(新人看護師研修, 看護部・クリニカルラダーに沿って実施)
講師;薬剤師、対象;新人看護師
- ③看護部安全対策委員グループ研修会, 講師;薬剤師、対象;看護師
- ④院内病棟看護師を対象にした口腔ケアの講義と実習
- ⑤放射線治療に関わる看護師、受付事務員、治療担当技師の治療機器安全研修
- ⑥がんに関する様々なテーマで多職種が参加する研修会
- ⑦呼吸補助器（アイノフローDS）の使用法
- ⑧早期臨床開発試験に係わる企業開発部門と連携し人員を受け入れ癌臨床の現場研修

・研修の期間・実施回数

- ①H28年4月13日
- ②H28年4月21日
- ③H28年9月8日
- ④1回90分 年間4回
- ⑤2017年5月28日～29日の内
- ⑥1時間～1日・年数回
- ⑦3か月(21回)
- ⑧2日間・1回

・研修の参加人数

- ① 計16名
- ②112名
- ③36名
- ④約20名
- ⑤10名
- ⑥1回につき30名～200名程度
- ⑦延べ123名
- ⑧1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

- ①新規採用薬剤、ハイリスク薬剤などに関する研修
- ②新人薬剤師研修・・・
 - 1 業務全般について
 - 2 輸液製剤の基礎(NST)
 - 3 緩和ケア/麻薬指
 - 4 糖尿病療養指導に必要な薬物療法
 - 5 感染対策
 - ③心電図・BLS
 - ⑥ステップアップ！救急看護
 - ⑦腎障害と腎代替療法
 - ⑧循環不全－入門編－
 - ⑨循環不全－レベルアップ編－
 - ⑩呼吸不全
 - ⑪敗血症とDIC

- ④人工呼吸器の管理
フィジカルアセスメント（呼吸・循環・腹部）
- ⑤持続導尿・気管挿管介助
- ⑫せん妄
- ⑬3D水ファントムによるビーム深部関数取得
- ⑭新採用看護師に対するオリエンテーション
（ME機器、設備関連）

・研修の期間・実施回数

- ①H28年4月～H29年3月（全38回；原則週1回）
- ②1 H28年4月19日～6月30日（全22回）
- 2 H28年7月26日～8月31日（全10回）
- 3 H28年10月4日（全1回）
- 4 H28年10月11日～11月30日（全5回）
- 5 H29年1月24日～3月15日（全10回）
- ③5月・4回
- ④9月～10月・4回
- ⑤9月～1月・26回
- ⑥11月～12月・4回
- ⑦9月・1回
- ⑧10月・1回
- ⑨10月・1回
- ⑩11月・1回
- ⑪12月・1回
- ⑫1月・1回
- ⑬2017年6月24日
- ⑭2日間、2回

・研修の参加人数

- ①薬剤師 15名～30名
- ②（新人）薬剤師 4～7名
- ③看護師 144名
- ④看護師 143名
- ⑤看護師 108名
- ⑥看護師 123名
- ⑦看護師 29名
- ⑧看護師 38名
- ⑨看護師 30名
- ⑩看護師 47名
- ⑪看護師 47名
- ⑫看護師 26名
- ⑬5名
- ⑭16名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 内山 和久	
管理担当者氏名	診療情報管理室長 大坂 直文 病院薬剤部長 勝間田 敬弘 中央放射線部長 鳴海 善文 広域医療連携センター長 内山 和久 病院看護部長 西山 裕子 医療安全推進部長 南 敏明 医療安全対策室長 村尾 仁 感染対策室長 浮村 聡 病院事務部長 木村 正士 庶務課長 藤岡 俊吾 患者サービス課担当課長 園田 泰弘 医事課長 辻 誠司 医薬品安全管理責任者 西原 雅美 医療機器安全管理責任者 岩崎 孝敏	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	電子カルテ
		処方せん	電子カルテ
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状	電子カルテ
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課 診療情報管理室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各部署
		高度の医療の研修の実績	各部署
		閲覧実績	広域医療連携センター 診療情報管理室
		紹介患者に対する医療提供の実績	各診療科
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、病院薬剤部 広域医療連携センター
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院薬剤部 医療安全推進部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学室 医療安全推進部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学室 医療安全推進部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学室 医療安全推進部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	病院薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療管理室
		監査委員会の設置状況	法人監査室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全対策室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全対策室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	広域医療連携センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医療安全対策室
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	受講予定		
			薬剤部－医薬品安全管理責任者講習会

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 木村 正士		
閲覧担当者氏名	広域医療連携センター 内山 和久 診療情報管理室 大坂 直文 病院事務部庶務課 藤岡 俊吾 病院事務部患者サービス課 園田 泰弘		
閲覧の求めに応じる場所	広域医療連携センター		
閲覧の手続の概要	「大阪医科大学附属病院 諸記録閲覧規程」に基づく		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 安全管理に関する基本的考え方2. 医療に係る安全管理のための委員会及び本院の組織に関する基本的事項3. 従業者に対する医療に係る安全管理のための研修に関する基本方針4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 医療従事者と患者との情報共有に関する基本方針7. 患者からの相談への対応に関する基本方針8. 高難度新規医療技術の導入並びに未承認薬等を用いた医療の導入を検討するに当たっての基本方針9. その他の医療安全推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (①・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療の質と安全確保の推進に関わる課題について審議する2. 医療安全調査委員会や医療改善委員会の報告を受け、検討内容及び改善策を検証する3. 重大な問題が発生した場合は速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従事者への周知を図る4. 安全管理委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直す5. 安全対策に関するマニュアル等の検討及び見直しをする6. 安全に関する教育・研修及び啓発に関する活動内容について検討する7. クリニカルガバナンスに関わる疑義の有無を審議する。疑義があると判断した際には、病院長がその部署に対して改善及び指導を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 10 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>特別講演会 (2回)</p> <ol style="list-style-type: none">① 「チーム医療 - ノンテクニカルスキルを磨く」② 「心理学から見た人びとのリスク認知」 <p>事例検討会 (8回)</p> <ol style="list-style-type: none">① 「ウイルス性肝炎について」 「平成27年度重大事例ふり返し (DVD視聴)」② 「周術期における静脈血栓塞栓症予防」 「安全かつ有効な鎮静のために～米国麻酔学会鎮静鎮痛ガイドラインの実践応用～安全で適正な輸血療法術期における静脈血栓塞栓症予防」③ 「臨床工学室の観点から見た災害対策」 「平成27年度災害訓練DVD上映」④ 「被虐待児の受け入れから転院までの課題 ～ある重症例を経験して～」⑤ 「医療の質をモニタリング ～医療管理室開設を記念して～」⑥ 「病院に係る個人情報について」⑦ 「チームで取り組む虐待対応～気付けますか？ 子どもからのSOS～」	

- ⑧ 「ロールプレイで振り返る今年の重大事例
…手術室におけるラテックスアレルギー陽性患者への対応をめぐる事例」
「医療事故後初期対応の教訓」

○上記特別講演会・事例検討会については別途59回DVD上映会を開催した

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 当事者は、担当医（指導医）、RM、関係科医師等へ連絡を行い、適切な対応を行ったうえ、速やかに報告する。
 2. 医療安全対策室は報告事例から対応策を検討し、当該部門長およびRMと連携し対応する。
 3. 分析、対処に当たった事例および対応中の事例は、安全管理委員会で報告し検討を重ね、事故の再発防止策についてRMを通じて医療従事者全員へ周知徹底を図る。
 4. 安全管理委員会は医療安全対策室からの報告に基づき、分析結果の妥当性、リスクの重大性、リスク予測の可否、システム改善の必要性、事故の予防策、再発防止策について検討協議する。
 5. 3b以上の事例および3aレベル以下であっても、患者家族の納得が得られない事例等については、医療安全推進部ミーティング、医療安全調査委員会にて今後の対応を検討する。
 6. 安全管理委員会に報告後、必要に応じて医療改善委員会や事故対策会議等を開催する。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大阪医科大学附属病院（以下、「本院」という。）における院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会、その他本院の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 8. 本指針の改廃の手続きについて 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に関する基本方針および院内感染対策実施に関する事項について協議する。 2. 院内感染発生時または発生が疑われる場合等の対応について協議する 3. 院内感染対策指針および院内感染対策に関する各マニュアル等の制定・改廃の承認について協議する 4. 委員会が報告を受けた感染対策室の業務内容について必要に応じて協議する 5. 委員会が感染対策室より報告を受けた院内感染に関する教育および啓発に関する活動内容について必要に応じて協議する 6. 小委員会の協議内容について必要に応じて協議する 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p>	
演題	講師/内容
あなたを守り 患者を守る 個人防護具の 5 つのポイント	神戸大学医学部附属病院 感染制御部 部長 時松 一成 先生 (内容) 医療関連感染と薬剤耐性菌の検出から感染経路を遮断する重要なポイントとしてPPEの使用
感染症発生届けについて～高槻市保健所から～ 感染対策の基本と最新の話題	高槻市保健所保健予防課 課長 谷本 芳美 先生 感染対策室 室長 浮村 聡 先生 (内容) ①高槻市保健所からは発生届の書き方や届出時の注意など ②感染対策の基本や本院での対応など
麻疹について～院内における対応と問題点～	本院 小児科/救急医療部 新田 雅彦 先生 (内容) 流行中の麻疹について、現状と院内の対応等
えー!まだ尿を溜めてるの?	本院 腎泌尿器内科 嶋 英昭 先生 (内容) 蓄尿器の廃止に向けた取り組みの報告
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染情報レポートを作成し感染対策委員会で発生状況の報告を行う 2. 各種委員会、担当者会議等、会議を通じて発生状況の報告を行う 3. 定期的なサーベイランス及び病棟巡回を通じて院内感染対策活動の推進と改善と共に、適正な抗菌薬の使用についての介入を実施 4. ICT-News を全部署に配布し、院内感染対策の推進を行う 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 58 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品（麻薬、毒薬、ハイリスク薬など）の安全な取扱いについて（対象：新人看護師） ・ エクアシールド混合調製実施研修〔抗がん剤の曝露対策〕（対象：医師，看護師） ・ 糖尿病療養指導に必要な薬物治療の知識（対象：薬剤師） ・ 医薬品安全使用に関する事例検討〔重点管理ハイリスク薬など〕（対象：全従業者） ・ 麻薬の取扱い、抗凝固薬/抗血小板薬の注意点（対象：看護師（看護部安全対策委員）） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 ((有)・無) ・ 業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 医薬品の採用・購入に関する事項（未承認新規医薬品等に関する事項を含む） 2) 医薬品の管理に関する事項 3) 病棟・各部門への医薬品の供給に関する事項 4) 患者に対する医薬品の使用（処方・調剤・服薬指導など）に関する事項 5) 医薬品情報の収集・管理・提供に関する事項（未承認等の医薬品の使用の情報等を含む） 6) 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 厚生労働省新着情報配信サービス・医薬品医療機器情報配信サービスなどWEBによる情報収集、および製薬メーカー・卸などから直接的に情報収集 2) 情報入手当日もしくは翌日（翌診療日）の薬剤部内朝礼で情報伝達 3) 緊急性に応じて「緊急薬剤部情報」「薬剤部情報」を作成し院内各部署へ配布 4) 処方医師に確実に伝達が必要な場合には、処方医リストを作成しDI室から直接処方医・当該診療科の薬事委員に連絡・通知する（電話もしくはE-MAIL）。さらに、病棟薬剤師が個別に情報伝達する（処方医師が当該情報を確認・把握しているか確認する） 5) 院内版薬剤部HPに新着情報掲載 6) 院内の医薬品の使用状況を定期的に確認し必要な措置を講ずる <ul style="list-style-type: none"> →未承認医薬品等の使用、適応外・禁忌等に該当する処方の把握、必要性の検討等 →月報として、管理者、医療安全管理責任者等に定期的に報告する 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	延べ年 11 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 医療機器の有効性・安全性に関する事項、使用方法に関する事項、保守点検に関する事項、不具合が生じたときの対応、使用に関して特に法令上遵守すべき事項、の5項目のいずれかもしくは全項目を、受講対象者に合わせて構成した内容にしている。<ul style="list-style-type: none">➢ 補助循環装置➢ 人工呼吸器➢ 呼吸補助装置➢ 除細動器➢ X線装置技術講習➢ 輸液ポンプ	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 使用後点検（兼使用前点検）により次回使用待機。 点検項目は機器ごとに要点を押さえ、シンプルにして効率化を図っている② 1年1回の定期点検 メーカーによる認定を受けられる機器については、メンテナンス講習を可能な限り受講し、院内点検を行う。院内点検での項目は、メーカーの点検項目及び基準値に準じて作成し実施。 その他メーカー保守による定期点検、院内点検プラスメーカー点検などにより重度点検を行う	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： 現状手術室に限られているが、機器のデモンストレーション、医療材料のサンプリングなどについては、所定の様式の事前提出にて関係スタッフに連絡するシステムを運用しており、使用状況を共有、把握している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	① 有・無								
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門である医療安全推進部の部長に医療安全管理責任者（副院長）を配置している。医療安全管理責任者は医療安全管理委員会の副委員長を担っている。医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者は医療安全推進部に属しており、医療安全管理責任者が統括している。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② 有（4名）・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品製造販売業者とのヒアリングやPMDAメディナビ等を利用して、医薬品情報を収集・管理する。得られた情報は緊急性・必要性に応じて、医薬品を取り扱う従業者に周知を図る（紙媒体・電子媒体）。処方医師が当該情報を確認・把握しているか、病棟担当薬剤師等がさらに確認する。また、情報収集にあたり、医薬品の適正使用のために必要な情報、医薬品の重大な副作用や健康被害等に関する院内外の情報収集に努める。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内の医薬品の使用状況を定期的に確認し必要な措置を講ずる（月1回程度） →未承認医薬品等の使用、適応外・禁忌等に該当する処方の把握、必要性の検討等 →疑義照会結果の月報を管理者、医療安全管理責任者等に定期的に報告する 未承認新規医薬品等の使用について審議する「病院倫理委員会」の委員に委嘱されている</p> <p>・担当者の指名の有無 ③ 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table border="0" data-bbox="183 1344 1276 1556"><tr><td>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</td><td>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr></table>		（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	④ 有・無								
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ④ 有・無 「インフォームドコンセントの指針」</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：診療科長会、合同会議等による周知、および 説明同意書スキャン文書の同席者調査を行なう。</p>									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>外来診療録、入院診療録の監査（オーディット）を紙カルテの頃から行なっている。電子カルテに移行後も、外来診療録は月に1度、入院診療録は1ヶ月毎に多職種で行なっており、定期的に診療情報管理委員会、診療科長会、合同会議で報告を行なっている。退院時サマリーの2週間以内完成の調査、入院診療計画書の記載確認、入院診療録の初診記録記載状況の確認等を行なっている。また毎週死亡患者について、死亡患者と死亡診断書の確認、死産件数の確認を行なっており、医療安全推進部へ報告している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（2）名、兼任（12）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（8）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「事故等」事例の発生頻度、事故の損害規模、事故の質等を分析する。 (2) 診療内容のモニタリングを行う。 (3) 安全対策についての問題点を把握し、改善策の企画立案やその実施状況进行评估する。 (4) 医療の安全管理の体制確保及び推進のための課題を検討するために、医療安全推進部ミーティングを行う。 (5) 安全対策に関するマニュアル等の具体的な検討及び見直しをする。 (6) 医療安全に係る職員への教育・研修を企画・実施する。 (7) 感染対策室と密接な連携をとり、院内感染防止に努める。 (8) 医薬品安全管理責任者と密接な連携をとり、医薬品の安全確保に努める。 (9) 医療機器安全管理責任者と密接な連携をとり、医療機器の安全使用の確保に努める。 (10) 未承認薬等並びに高難度新規医療技術を用いた医療の導入に関することを行う。 (11) その他、必要な事項は別に定める。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>高難度新規医療技術の導入時には、診療科等から医療管理室に申請があり、病院倫理委員会が新規医療検討委員会に諮問する。新規医療検討委員会の審議した結果を受けて、病院倫理委員会にて導入の適否について審議している。審議結果は、病院長及び医療管理室に報告を行い、申請者に通知する。また、新規医療検討委員会において、高難度新規医療技術導入後の実績について評価及び検証を行っており、その結果を病院長及び医療管理室、病院倫理委員会に報告している。</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有・無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有・無)
- ・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等の導入時には、診療科等から医療管理室に申請があり、病院倫理委員会にて導入の適否について審議している。病院倫理委員会の審議結果は、病院長及び医療管理室に報告を行い、申請者に通知する。病院倫理委員会において、平成28年度の承認案件について進捗状況調査を実施しており、その結果が医療管理室及び病院長に報告している。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有・無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有・無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・監査委員会の開催状況：年0回

※H28年度日程調整つかず、H29年6月に第1回目の委員会を開催
- ・活動の主な内容：
 - (1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者等の業務状況が適切に実施されているか病院長等から報告を求める事及び、必要に応じた確認の実施
 - (2) 必要に応じて医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう、理事長、病院長に対しての意見を表明する。
 - (3) 前2号の業務の実施結果の公表
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有・ 無)
- ・委員名簿の公表の有無 (有・無)
- ・委員の選定理由の公表の有無 (有・無)
- ・公表の方法：

ホームページの病院概要の「安全な医療への取り組み」に委員名簿と監査結果を掲載

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小林 一朗	社会医療法人仙養会北摂総合病院	○	高槻市医師会の医療安全対策委員会委員であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
西 信一	兵庫医科大学病院		大学附属病院の医療安全管理部長であり医療に係る安全管理に関する識見を有する者であるため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1

家郷 資大	家郷総合法律事務所		現職の弁護士であり、法律に関する識見を有する者であるため	有・ <input type="radio"/> 無	1
田中 和子			実際に医療を受ける者であり、意見をのべることができる者であるため	有・ <input type="radio"/> 無	2
佐野 浩一	学校法人大阪医科薬科大学		大学の教員であり、医療等の内容及び説明、同意文書が一般的に理解できるか等の意見をのべるることができる者であるため	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 427 件（H28. 4. 1～H29. 3. 31）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 182 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療安全推進部の実務にあたる。医療安全対策室の活動
 - ① 全死亡症例の把握（死亡の事実、死亡前の状況）を行い、管理者に報告する。
 - ② 通常の経過では必要のない処置又は治療が必要になった事象の報告を受け、発生前の状況を把握し管理者に報告する。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ））無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ））無
- ・技術的助言の実施状況
※経過措置期間までに対応致します。
平成 29 年度は、私立医科大学協会医療安全相互ラウンドを「福岡大学病院」と実施予定。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者サポート体制加算をとっており、患者向けのあらゆる相談について窓口の体制を有している。
窓口には、看護師・医療ソーシャルワーカー・事務が常駐しており、安全管理に関する相談があれば、必要に応じて担当者が面談している。また申出内容については院内にあるシステムに則り対応をすすめている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
 - 新入職員オリエンテーション
 - ・全職種が一堂に会すオリエンテーションにて、医療安全対策について医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者とともに実施。
 - 臨床研修医オリエンテーション
 - ・「安全対策ワークグループ」実習を室員の先生方の協力のもと実施。
 - 臨床研修医及びレジデント対象
 - ・「HBV再活性化問題について」
 - ・「CVC挿入について」

- ・「インスリン安全使用について」
- リスクマネージャー宿泊研修
 - ・ケースを主体にした、危機管理、安全管理（情報開示と謝罪、TeamSTEPPS等）の講義・演習 他

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

※H30年3月までに対象研修会受講を予定。
 なお、現在までに受講している内容を記載いたします。

管理者

- ・大学病院における医療の質向上と患者安全〔JANAMEF〕2016年
- ・外科医に求められる医療安全－医療事故調査制度の開始にあたって－2016年
- ・医療事故の調査などに関するシンポジウム〔全国医学部長病院長会議〕2017年
- ・第25回生涯教育セミナー（近畿地区）「医療安全」〔日本外科学会〕2017年

医療安全管理責任者

- ・機構専門医共通講習（医療安全）コミュニケーションエラー〔第61回日本麻酔科学会関西支部学術集会〕2015年
 （参加予定）平成29年度医療安全に関するシンポジウム〔厚生労働省 近畿厚生局〕

医薬品安全管理責任者

- ・医薬品安全管理責任者等講習会（日本病院薬剤師会）2016年（毎年）
- ・医薬品安全管理者研修会（国際医療リスクマネジメント学会）

医療機器安全管理責任者

- ・医療安全教育セミナー（実践編）2016〔国際医療リスクマネジメント学会〕2016年

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>①日本医療機能評価機構 3rdG : Ver. 1.1 認定期間 平成27年7月25日～平成32年7月24日 主たる機能：一般病院2 認定第JC602-3号 副機能：精神科病院 認定第JC602号</p> <p>②卒後臨床研修評価機構 認定期間 平成29年4月1日～平成31年3月31日 認定番号Pg0223-2</p> <p>③公益財団法人 日本適合性認定協会 ISO15189 : 2007 認定期間 平成21年3月23日～平成29年3月31日 認定番号RML00450</p> <p>④エイエスアール株式会社 ISO9001 : 2008 認定期間 平成28年10月3日～平成30年9月14日 登録番号Q2906</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>●特定機能病院としての役割</p> <ul style="list-style-type: none">・リーフレット作成……大阪医科大学附属病院とは別に、かかりつけ医をもってもらうことを訴求したリーフレットを作成し、外来などで患者へ配布している。・病院ホームページ作成……診療科ごとの診療内容など患者様にわかりやすく記載している。また、医療機関向けのページも作成している。適正な診療科や専門外来への誘導・支援に貢献している。・診療科リーフレット……診療科ごとの診療内容など患者様にわかりやすく記載している。適正な診療科や専門外来への誘導・支援に貢献している。 <p>●肝疾患相談支援センター（肝疾患拠点病院）としての役割</p> <ul style="list-style-type: none">・専用ホームページ作成……疾患の特徴、治療方法、注意事項などを説明している・肝臓病教室の開催……偶数月2ヶ月に1回を頻度を実施。患者さまを対象に、多職種（医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど）を講師として1時間のミニレクチャー。・市民公開セミナーの実施……1年に1回市民を対象にした公開講座を実施（平成29年9月2日実施）・肝疾患相談支援センター……講座や肝炎の啓発など情報提供を定期的実施。	

●難病総合センターとしての役割

- (1) 難病に関する情報の収集分析並びに難病対策、教育、啓発の企画立案に関すること。
- (2) 難病登録及びデータの二次利用に関すること。
- (3) 難病の診療及び教育に関すること。
- (4) 難病指定医の登録管理に関すること。
- (5) 集学的治療を円滑に行うための難病支援に関すること。
- (6) 地域の医療機関・福祉施設・行政機関等との連携に関すること。
- (7) 難病治験・臨床試験の活性と支援に関すること。
- (8) 難病の先端的医療の開発に関すること。
- (9) 難病在宅支援並びに難病専門教育研修実施に関すること。
- (10) その他、センターに関すること。

- ・地域医療介護総合確保基金事業→大阪府からの委託事業【難病患者在宅医療支援事業】
- ・研修会（年2回以上、対象は、在宅のスタッフ）
- ・同行訪問（当院専門医とかかりつけ医が在宅の患者宅に出向き、協議する）
- ・三島圏域難病医療ネットワーク会議（医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護支援専門員協会、訪問看護ステーション協会、保健所が参加）事務局として活動
- ・三島圏域の健康フェアに参画
- ・筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病の啓発事業

- ・がんセンターホームページを随時更新し情報発信している。（2週間に1回程度）
- ・ポスター、チラシの掲示（開催の1～2か月前）

患者様向け⇒市民公開セミナー、がん患者サロン等の開催、緩和ケア研修修了者一覧、がん登録情報、治療成績などを中心に情報発信している。

医療関係者向け⇒がん地域連携パスに関する様式や手順を掲載しがん地域連携パスの推進を行っている。レジメン登録、がんセンター主催の研修会の受講案内、特別講演会や三島がん研究会の開催などを中心に情報発信している。講演会関連については、ポスターやチラシを院内掲示、近隣の医療機関や院外薬局、がん地域連携パスの連携医などにも案内している。今年度の病院ニュースには、「がん診療への取り組み」をテーマに関連する部署の連載を開始している。この広報紙は誰でもが手にとれるように配置している。さらに、先端医療開発部門、化学療法センター、臨床研究センター、緩和ケアセンター、治療成績などがんに関する様々な情報をホームページやポスター、チラシなどを通じて患者および医療従事者に向けて情報を発信している。

昨年度末には、がん診療に携わる診療科より「がん連絡担当医」を選出し、「がん」に関する情報・講演会・研修会、緩和ケア研修会の受講の促進などの情報を発信し科内周知を依頼している。

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無

有・無

・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

がんセンターでは、がん連絡担当医、関連する診療科の医師、病理医、放射線治療医、看護師薬剤師など多職種が参加するがんセンターボード（WG）を毎月第1木曜日に開催している。

また、緊急に診療科で発生するがん患者のがんセンターボードの依頼は、主治医からがんセンターボード担当医またはがんセンターに連絡があり迅速に対応できるようになっている。

骨転移がんセンターボードについても、定例化しており毎月2回、複数の診療科医師、放射線科医など多職種が参加して症例検討を行い、迅速に治療を行う手助けとなっている。

さらに、「若いがん患者の妊孕性温存療法」については、関連する複数の診療科の医師が連携を取りWGの開催、患者リストへの登録、専用テンプレートの作成など診療科の垣根を越え協力し進めている。

複数の職種で構成された緩和ケアチームでは、カンファレンスを行いチームで連携して診察にあたっている。平成28年度から口腔外科と連携を取り、歯科医師が緩和ケアチームと一緒に回診に週1回同行している。口腔ケアチームの介入が必要な患者の選別、患者や病棟看護師への口腔ケアの指導などを行っている。

化学療法センターでは、化学療法センター配属の医師を中心に化学療法に関わる複数の診療科の医師、看護師、薬剤師、MSWなどが一緒にカンファレンスを行い診察にあたっている。